

熊本城新聞

2025年7月21日
田中学園立命館
慶祥小学校
5年1組
宮島怜子

九州研修 熊本城への思い

私たち五年生は、研修旅行で吉野ヶ里遺跡、水俣病資料館、太宰府天満宮、熊本城に行った。

その中で熊本城の何度もあった震災から立ち直ってゆく姿や昔からの工夫などが私の心に強く残り、城の歴史や熊本城に関わった人々、建物の工夫についてもっと知りたいと思ったので、熊本城のことだけにしぼって調べ、まとめる。

熊本城は火の国・熊本県熊本市にある城で「日本三大名城」の一つである。現在の熊本城の前身である「隈本城」があったといわれているが城の位置などは定かではない。一五九〇年ころより加藤清正が石垣づくりの城に大改造し城を整備、翌年には天守を完成させた。清正の死後、息子・忠広は小天守を増設し、大天守・小天守からなる現在

の熊本城、天守閣が完成した。この時代に大地震があり熊本城は初めて被災している。その後は細川忠利が熊本城の修理や城下の整備、文化や教育が花開いた時代もあった。そして、西南戦争や明治熊本地震、平成熊本地震を乗り越え、四百年もの歴史がある。

熊本城の構造と強さ



熊本城を囲む石垣、天守や石落とし、石階段などは、敵の侵入をしづらくするために、さまざまな工夫がされている。

「武者返し」と呼ばれる反りのある高い石垣により、敵が登れないようにし、いつでも上から石を落とせる構造になっている。

また、熊本城の石垣は接着剤を使わずに大小さまざまな石を組み合わせ、不規則に積み上げてはめこむ方法や同じ大きさにそろえた石を、横一列に積み重ねている。それにより、敵の攻撃や地震などの災害が起きても簡単にくずれない強い熊本城が作られたのだ。

城の中心にある最も高い建物を指す「天守」は戦いになった場合に最後にたてこもる建物で、防火や防弾のため厚くなった土かべになっていたり、銃や弓による攻撃のための窓やさまという小窓が各階にあった。死角になる角に設置された石落としは、建物の下にいる敵を攻撃するための外側にせり出した装置だ。

平成二十八年熊本地震

平成二八年（二〇一六年）四月、最大震度七の地震が十四日と十五日の二度にわたって熊本地方をおそった。熊本城は国指定重要文化財建造物の十三棟全てが被災し、石垣が五十か所で崩落、地盤の沈下・地割れは七十か所におよんだ。

この熊本地震を経験した方からお話を聞いてきた。天守閣が崩れると土ぼこりがたくさん舞っていたそうだ。また、二週間も水が止まったり壁に亀裂が入ったり古い避難所が崩れることさえもあったそうだ。

現在行っている

復旧計画やイベント

熊本県では二〇一八年から「熊本城復旧基本計画」を始め、熊本のパネルで

もある天守閣、長堀と監物櫓は復旧が完了したがそれ以外の城や石垣は復旧中である。まだ二割ほどのみ復旧できていないが、完全復旧は二〇五二年を予定。壁の裏にダンパーを交差させて設置し、地震時にダンパーがのびて建物を支える工夫もしている。さらに、普段は壁の裏にあるが一つだけあえて見える所に設置することで、建物の安全性を伝えているそうだ。建物や石垣の復旧、周辺施設の整備などの他にマラソンやライトアップされた熊本城を使ったイベント、講習会が行われている。これらのイベントに参加し歴史を知るために多くの観光客が熊本城に訪れるのだ。

熊本城 四〇〇年の歴史



震災前と震災後の熊本城

六つのかど？食べられる城？

様々な工夫がある熊本城だが、「六つのかど？」と「食べられる城？」がともおもしろいと思った。「六つのかど？」

竹の丸（重要文化財の長堀や肥後名花園があるこの丸）から飯田丸（本丸の南側を防御するための要所。中には台所、鉄砲蔵）に向かって六回折れ曲がる道を「連続ます形」と言う。その先には天守閣や本丸があり厳重に見張っていたため、六回もの曲がり角により敵はスピー



連続ます形

ドを落とし侵入しづらい構造になっている。この「連続ます形」を侵入できた敵は一人もいなく、熊本城の防御性の高さを示す場所である。「食べられる城？」

加藤清正は築城にあたり、非常食として建物の壁にカンピョウをぬりこみ、畳床にずいきを使つてう場に備えたそう。それを証拠づけるものは見つからないが、「畳の下地は念を入れるべし」と書いた清正の手紙が残っている。食べられたかは定かではないが、畳にはこだわっていたらしい！

「難攻不落の堅城」

一八七七年二月、九州各地で西南戦争が始まり、熊本城で薩摩軍と政府軍が戦った。熊本城は薩摩軍の猛攻を52日間耐え抜き勝利し「難攻不落の堅城」と呼ば

れるようになった。しかしその後、熊本城全体が炎に包まれ四時間で天守は焼失、石垣は崩落、櫓も損壊してしまった。

一八九九年七月、熊本県

や大分県など九州西部で明治熊本地震（金峰山地震）があった。震度7の地震により石垣の四十二か所が崩落、壁の破損などの被害を受けた。その後、修理や再建工事が続けられ一九六〇年には石垣や天守がよみがえった。

一九三三年には十三棟が

国宝に指定され、その後重要文化財となった。昭和以降も定期的な修理を続け、加藤清正が築いた当時の姿を再現する整備を三十から五十年かけて進めていたが、二〇一六年に再度、熊本地震で被害を受けた。現在も復旧がすすんでおり、難攻不落の堅城なのだ。

編集後記

今回、熊本城を見て構造や強さの説明を聞き、調べたことで熊本城の強さにおどろいた。城を支える石垣がほとんどくずれても城はかたむくことのない強さがあるからだ。また、攻撃力や防御力も優れていると知

った。戦争や震災を通して四〇〇年もの歴史をたくさんの人々と刻んできた熊本城に感動した。

最後に、震災を経験した方より「たよれるのは自分自身。自分の命は自分で守る」と言葉があった。この言葉から震災を三回以上乗り越えたこの熊本城は、防災を伝える場であり、防災について考えるきっかけを作る役割だと知った。



現在行っているイベント
ライトアップやお祭り